

## 中間評価シート

### 中間評価（表紙）

佐川町歴史的風致維持向上計画（第2期）（平成31年3月26日認定）  
中間評価（平成31年度～令和5年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物等の保全・活用	3
II 歴史的資源の保全・整備・活用	4
III 歴史と伝統を反映した人々の活動	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 偉人顕彰活動やイベント等による交流人口の増加	6
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 司牡丹酒造（株）焼酎蔵買取・整備事業	7
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 「文教」が醸し出す歴史的風致	8
2 「古城山」にみる歴史的風致	9
3 「商い」にみる歴史的風致	10
4 「民俗芸能」にみる歴史的風致	11
■ 庁内体制シート（様式6）	12
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	13
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	14

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
<b>① 歴史的風致</b>			
	歴史的風致	対応する方針	
1	「文教」が醸し出す歴史的風致	I, II, III	
2	「古城山」にみる歴史的風致	II, III	
3	「商い」にみる歴史的風致	I, II	
4	「民俗芸能」にみる歴史的風致	III	
<b>② 歴史的風致の維持向上に関する方針</b>			
	方針		
I	歴史的建造物等の保全・活用に関する方針		
II	歴史的資源の保全・整備・活用に関する方針		
III	歴史と伝統を反映した人々の活動に関する方針		
<b>③ 歴史まちづくりの波及効果</b>			
	効果		
i	偉人顕彰活動やイベント等による交流人口の増加		
<b>④ 代表的な事業</b>			
	取り組み	事業の種別	
A	司牡丹酒造（株）焼酎蔵買取・整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
方針	I 歴史的建造物等の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本町には、重要文化財である竹村家住宅をはじめ、歴史ある建造物が数多く残っており、上町地区においては、司牡丹酒造株式会社の酒蔵群が多くを占め、酒造りを中心とした商家の町並みが形成されている。

これまで、上町地区の町並みを構成する重要な建造物である旧竹村呉服店と旧浜口家住宅の耐震改修工事や内外装の整備を行った。しかし、上町地区の大部分を占める司牡丹酒造株式会社所有の酒蔵群には、修復・保存が必要と考えられるものが残っている。それらの建造物のうち、司牡丹酒造1号蔵と焼酎蔵は老朽化が進み外壁などが崩れかけているため、景観面だけでなく安全面の観点からも、修復等の整備が必要な状態であると考えられる。また、歴史的建造物は、地域の歴史や文化を伝える役割を有しているため、その活用が重要である。しかし、人々が、歴史的建造物とその歴史や文化に触れる機会を得るに十分とはいえない状況である。

【方針】佐川町は高知県内においては、白壁の酒蔵の町として認知されている。地元酒造会社の酒蔵群は、本町の歴史的風致を構成する要素の中で最も重要であるといえる。そのため、これらの酒蔵群は内外装の整備や耐震補強工事などを実施し、建造物が減失していくことを防ぐ必要がある。また、これまで来訪者や地域住民に提供できていなかった酒造りの手法や歴史、文化の展示機能を付加するなど、近隣の施設と一体的な活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	司牡丹酒造（株）焼酎蔵買取・整備事業	耐震補強基本計画及び活用計画策定	あり	R3～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

司牡丹酒造（株）焼酎蔵買取・整備事業

佐川町立図書館を新しく整備するにあたって、焼酎蔵を含む土地を候補地として検討していたが断念することになった。しかしながら、令和3年度の佐川町歴史的風致維持向上計画協議会において、焼酎蔵の活用方法について意見聴取を行ったところ、観光客が何度訪れても飽きさせない内容や町内の他観光施設との連携を求める声が多く挙がった。

令和4年度には、佐川町歴史的風致維持向上計画協議会にて、司牡丹酒造（株）焼酎蔵買取・整備事業のスケジュール等について承認を得ることができ、令和5年度には耐震補強基本計画及び活用計画策定業務を実施。



司牡丹酒造（株）焼酎蔵



「佐川町歴史的風致維持向上計画協議会」開催時の様子

④ 自己評価

耐震補強基本計画及び活用計画策定業務について、公募型プロポーザル方式により事業者を選定し、事業を進めてきたが、行政や佐川町歴史的風致維持向上計画協議会だけで進めるのではなく、町民の方へワークショップやヒアリングを開催したことにより、町民の意見や思いを反映させながら実施することができた。

⑤ 今後の対応

今後、司牡丹酒造（株）焼酎蔵の保全・活用に向けて事業を推進していくが、焼酎蔵以外の酒蔵群の保全・活用についても検討する必要がある。

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
方針	Ⅱ 歴史的資源の保全・整備・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】佐川町の歴史的風致を構成する建造物、民俗芸能、歴史的人物などの文化資源は、その活用がそれぞれ単体としてはあっても、相互に関連して行われることが少ない状態であった。第1期計画により、個々の文化資源同士の関係性を利用した取組が行われ始めたものの、各風致間の枠を越えた資源同士の活用はほとんど行われていない。

【方針】第1期計画策定以前と比較すると、歴史的資源を利用した取組は増えている。しかし、それぞれの資源が一体的に活用されている事例は多くはない。本町の歴史的建造物にはその周辺の自然環境と一体をなして歴史的風致を形成しているものがある。また、「文教」「商い」「古城山」にみる風致は、各風致間の関連性が非常に深い。案内板やパンフレットの作成、標識・説明板の設置など、一体的に取り組むことで、歴史的風致を形成する建造物同士が結ばれ、歴史的風致エリア全体を面的に捉えられることができる。複数の歴史的資源を一体的に保存・活用することで、より一層、歴史風致の維持向上を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	牧野公園整備事業	地域コミュニティとの協働及び草花ガイドの育成・活動	あり	H31～R5
2	住民による歴史的資源を利用した活動	活動への補助	あり	H31～R5
3	牧野富太郎博士顕彰事業	一体的なPRの実施	なし	H31～R5
4	文化財を活用した取組	観光イベントでの活用	なし	H31～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・平成26年度からの牧野公園のリニューアル事業の推進により、地域ボランティアによる牧野公園の整備が進み、年間を通して草花を楽しめる公園となった。令和4年度からは、牧野公園草花ガイドを育成し、活動を始め魅力発信の強化を図っている。

・歴史的風致を形成している上町周辺一帯のガイドを行う住民団体の活動が活性化し、令和5年度には前年度と比較すると2倍以上に利用者が増えている。

・牧野富太郎博士顕彰事業として、歴史的風致を形成する牧野公園や、上町周辺の建造物等を一体的に活用できている。統一したデザインの案内看板の設置や、草花ガイド・まち歩きガイドの連携、上町周辺の全体的なリニューアルによって個々の資源を連携・活用した取組が推進されている。

・観光協会との連携により歴史的建造物を活用したイベント（酒蔵ロード劇場・体験型観光イベント）を開催している。



NPO法人佐川くろがねの会によるガイドの様子



酒蔵ロード劇場

④ 自己評価

連続テレビ小説「らんまん」の放送があり、牧野富太郎博士顕彰事業として歴史的風致を形成している牧野公園や上町周辺の建造物について活用が進み、加えて観光客も増加したことから、町の歴史的風致を形成している全体を全国に対してPRできた。

⑤ 今後の対応

牧野富太郎博士顕彰事業の実施により推進された一体的な活用が継続できるよう、支援を行うと共に、観光協会や地域団体との連携を図る。

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本町には、瑞応の盆踊りをはじめとする各地域固有の民俗芸能や祭礼行事のほか、住民による偉人顕彰活動などの文教活動が根付いている。

これまでの町の支援や歴史まちづくりの取り組みにより、伝統文化の伝承や後継者育成など、住民が主体となり伝統文化保存活動を行うことで、郷土意識の醸成が図られてきている。

しかし、民俗芸能担い手の高齢化と地域の若者人口の減少による担い手不足は年々深刻さを増しており、これまで地域の歴史的風致を支えてきた人々の活動の継続が危ぶまれる状況である。

【方針】

歴史と伝統を反映した人々の活動は、地域住民のみで対応するには限界がある。民俗芸能や伝統行事は、地域や学校、関係団体等と連携しながら、活動や教育等を通じて若い世代への普及・啓発を図る。また、活動を披露する場の拡大や、他地域との交流の拡大など、住民団体が主体の活動に支援を実施することで、地域コミュニティの活性化を促し、これらの活動への積極的な参加と、将来の担い手の育成を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	「文教のまち」推進事業	「文教のまち」推進事業費補助金の制定	あり	H31～R5
2	民俗芸能保存・継承事業	無形民俗文化財の活動支援	あり	H31～R5

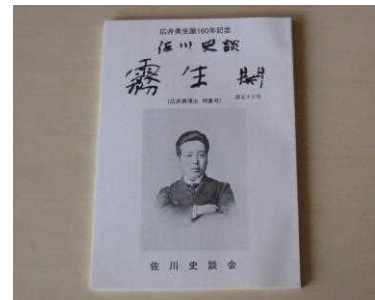
③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

「文教のまち」推進事業

歴史的風致の維持向上と歴史的文化を活用したまちづくりの推進を図ることを目的とした、補助金佐川町「文教のまち」推進事業費補助金を令和2年度に制定した。計画（第2期）の「文教が醸し出す歴史的風致」にのっとり、文教のまちを次の世代へと継承する活動・事業に対し補助している。

各地域での無形民俗文化財の開催

「瑞応の盆踊り（県指定保護無形文化財）」をはじめ、「佐川町の太刀踊（県指定保護無形民俗文化財）」や「白倉神社花取踊（町指定保護無形民俗文化財）」などを開催した。その他にも地域の児童などを含めた「太刀踊り子ども教室」も行った。



機関誌「霧生関」



瑞応の盆踊り

④ 自己評価

「文教のまち」推進事業については、補助金を活用した機関誌「霧生関」が発行されたことにより、地域住民の町の歴史や佐川町出身の偉人に対する関心や理解が深まった。

文化財の保存及び活用の普及・啓発については、令和2・3年と新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止や規模を縮小しての開催となっていたが、令和4年には通常どおり開催することができ、地域の伝統芸能としての価値を高めた。

⑤ 今後の対応

本町の歴史まちづくりは計画策定から十数年が経過したが、対外的には認知度が高いとは言えないため、これまでの活動を継続していくことが必要である。また、協議会委員の意識を高めていく取り組みも必要だと考える。

文化財の保存及び活用の普及・啓発については、継続して文化財の開催支援や文化財に関する教室などを行っていき、啓発活動を実施する。

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5								
効果	i 偉人顕彰活動やイベント等による交流人口の増加										
<p>① 効果の概要</p> <p>観光客数が佐川町歴史的風致維持向上計画（第2期）の策定以前に比べて増加した。</p>											
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>牧野富太郎博士顕彰事業</td> <td>なし</td> <td>R5</td> </tr> </tbody> </table> <p>牧野富太郎博士を題材にした連続テレビ小説「らんまん」が令和5年春放送決定。これに合わせて「牧野富太郎博士顕彰事業実施計画」を作成し、計画を元に様々な事業を実施した。</p>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	牧野富太郎博士顕彰事業	なし	R5
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度								
1	牧野富太郎博士顕彰事業	なし	R5								
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>平成20年度に佐川町歴史的風致維持向上計画を策定し、様々な事業を行ってきたことにより、策定以前と比べ交流人口は増加傾向にあった。平成31年度には佐川町歴史的風致維持向上計画（第2期）を策定し、第1期から継続的に歴史的資源等の保全・活用を図ってきた。</p> <p>これに加え、連続テレビ小説「らんまん」の放送が決定し、これまでの想定以上の観光客の来町が見込まれるため、放送を契機とした観光振興を図り、町外向けの情報発信や、観光の中心となる上町周辺の観光施設のリニューアル等観光客受け入れ態勢の整備（ソフト・ハード）を実施。</p> <p>イベントについては、酒蔵の白壁をスクリーンに見立てて、影絵を映す「酒蔵ロード劇場」、歴史的建造物などで数百体のおひな様に出会える「酒蔵の道ひなまつり」、日本さくら名所100選に選ばれた牧野公園では、ぼんぼりがともり夜桜を楽しめる「牧野公園さくらまつり」など文教と歴史の町らしい催しがあり、町内外の入場者で賑わっている。</p>											
<p>④ 自己評価</p> <p>佐川町歴史的風致維持向上計画（第2期）に加え、牧野富太郎博士顕彰事業を実施したことにより、当該年度の入り込み客数は激増しており、町内外の方に本町の歴史や文化をPRすることができた。</p>											
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>観光客数が増加し、本町をPRすることができたが、全国の観光地に比べると知名度は高いとは言えない。</p> <p>今後も街並み・文化・観光施設等の質をさらに高め、重点区域内の一体的な活用を図る。</p>											



牧野公園内フォトスポット



牧野博士を模したラッピングバス



酒蔵の道ひなまつり

市町村名	佐川町	評価対象年度	R3～R5										
取り組み	司牡丹酒造（株）焼酎蔵買取・整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設										
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>今後、司牡丹酒造（株）所有の焼酎蔵を買い取り、耐震補強工事、老朽化している白壁の修理、内外装の整備を行い、酒造り歴史展示施設としての機能に加えて、重点区域内の建物や施設等と一体的に活用することで、「商い」にみる歴史的風致の維持向上に寄与するための事業を推進している。</p> <p>事業スケジュール（予定）</p> <table border="0"> <tr> <td>令和5年度</td> <td>耐震補強基本計画及び活用計画策定</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>基本設計・用地買取</td> </tr> <tr> <td>令和7年度</td> <td>実施設計</td> </tr> <tr> <td>令和8年度</td> <td>改修工事</td> </tr> <tr> <td>令和9年度</td> <td>活用開始</td> </tr> </table>				令和5年度	耐震補強基本計画及び活用計画策定	令和6年度	基本設計・用地買取	令和7年度	実施設計	令和8年度	改修工事	令和9年度	活用開始
令和5年度	耐震補強基本計画及び活用計画策定												
令和6年度	基本設計・用地買取												
令和7年度	実施設計												
令和8年度	改修工事												
令和9年度	活用開始												
		 <p>ワークショップの様子</p>											
		 <p>司牡丹酒造(株)焼酎蔵</p>											
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>令和5年度には、耐震補強基本計画及び活用計画策定業務について、公募型プロポーザル方式により事業者を選定し、事業を進めてきた。</p> <p>行政や佐川町歴史的風致維持向上計画協議会だけでなく、町内外の方を対象にしたワークショップの開催、重点区域周辺で宿泊業や飲食業を営んでいる事業者や自治会長を対象に個別ヒアリングを実施したことにより、町民の意見や思いを反映させながら事業を実施することができた。</p>													
外部有識者名	佐川町歴史的風致維持向上計画協議会 会長 吉野 毅氏												
外部評価実施日	令和6年3月25日												
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>焼酎蔵の保存・活用に向けて事業が進みはじめ、活用案として宿泊施設や飲食店などがあがっているが、活用案を採用するにせよしないにせよ、改修を行うときは建物の歴史や景観を損なわないような内容で進めてもらいたい。</p>													
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>令和6年度以降は、基本設計、実施設計、用地買取を予定しており、令和8年度に改修工事、令和9年度の活用に向けて事業を進めている。活用内容によっては、建物の管理等を含めた管理及び運営事業者の選定も必要になってくるので、選考方法などについても事前に検討しておく。</p>													

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
歴史的風致	1 「文教」が醸し出す歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物等の保全・活用に関する方針 II 歴史的資源の保全・整備・活用に関する方針 III 歴史と伝統を反映した人々の活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

佐川町は、町内外から「文教の町」と評されている。これは、江戸期、土佐藩筆頭家老であった佐川領主深尾氏が代々文教施策に力を入れ、その結果、多くの学者や政治家、文化人を輩出したことに由来する。

「文教」とは、学問・教育によって人を教化する、若しくは教育行政の意である。つまり、文教は概念的なものであり、その有り様や成果が実体的に顕在化しにくい側面も有しているが、逆に言えばそれ故にこそ人々の心の中に確かに根付いているものだといえる。

佐川町民は、佐川が深尾氏の城下町であったこと、そして、文教の伝統が脈々と継承されていることに誇りを持っている。

文教は、佐川の歴史や文化の基底に流れており、当然、人々の心の中に通底している。佐川領主深尾家の文教施策が、名教館を中心の舞台として根付かせた文教精神は、時代を通じて継承されている。文教の活動は、ある時は「青山会」となって、ある時は「土佐文化向上会」となって、また、ある時は「霧生関刊行」として、バトンタッチされてきた。

これらの活動を1本の線で繋いでいるのが文教精神である。そして、この文教精神のバックボーンにあるのが名教館精神である。

それぞれの時代の各活動に関わった佐川の人々は、熱い思いと誇りを胸に、文教を次の世代へと継承してきた。そして、それが文教の歴史的風致を醸し出してきた。これが現在の文教の町・佐川町である。

② 維持向上の経緯と成果

多くの偉人を輩出し「文教」の礎となった「名教館」を始め、佐川文庫庫舎（旧青山文庫）、牧野公園など多くの文教が醸し出す歴史的風致がある上町（うえまち）地区は、令和4年度から「牧野富太郎博士顕彰事業」において、パネルのリニューアルなどの受入環境整備や青山文庫の企画展の実施、青山文庫から牧野公園への誘導路の整備が行われたが、連続テレビ小説「らんまん」の放送の効果もあり、多くの入り込みがあり、来館された観光客に建物や文教の歴史などを発信することができている。また、かねてより上町周辺で歴史的建造物の紹介などをおこなってきた「まち歩きガイド」の活動が活発化し、また、令和4年度末からは、「牧野公園草花ガイド」が活動を始め、かつ両ガイドが連携されるなど、地域住民の活動も推進されている。



名教館のリニューアルしたパネル

③ 自己評価

牧野富太郎博士が全国的な注目を浴びることとなり、事業が実施され、上町周辺全体の受入環境が整備できた。これにより多くの方に、名教館を初めとする歴史的風致の建物や佐川町の文教の歴史に触れてもらう機会となった。また、地域住民による歴史的風致への理解も推進され観光面での連携が進んだ。

④ 今後の対応

牧野富太郎博士を切り口とした観光振興事業について継続し、町内外、全国からの観光客の誘致を推進することで、歴史的風致への理解や活用を図る。



市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
歴史的風致	2「古城山」にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅱ 歴史的資源の保全・整備・活用に関する方針 Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動に関する方針		

① 歴史的風致の概要

佐川の中心部に位置する上町地区の南側には、古城山と呼ばれる山がある。この古城山には、文字通りかつて山城（佐川城）が存在していた。

古城山の北面の一部にあたる位置に牧野公園がある。この牧野公園は佐川城郭の一部であり、追手口（城の表口）であった。現在は桜の名所として町内外から親しまれ、桜の季節には多くの観光客で賑わっている。町の中心部に高くそびえる古城山の一画が、限られた期間さくら色に塗りかえられる風景は、佐川ならではの風情を醸し出している。

牧野公園が桜の名所として知られ始めたのは明治35年（1902）頃であるが、「佐川の桜」の始まりは、文化・文政年間（1804～1831）だといわれている。牧野公園と並び、和楽園や春日川沿いの桜並木は桜の名所として知られており、その他にも「佐川のまち」ではいたるところで桜を目にすることができる。佐川の桜は長い年月を経て、「桜のまち」をつくりあげてきた。

佐川が輩出した偉人の一人である世界的植物学者牧野富太郎博士は、古城山の麓の上町地区に生まれた。前述の牧野公園が桜の名所として知られ始めるきっかけとなった人物が牧野富太郎博士である。牧野富太郎博士は、青年期まで古城山をはじめとする近郷の山々をフィールドに植物採集を楽しんでいた。後に、「植物の父」として世界中から敬愛される植物学者となった。当然、佐川でも多くの人々から敬愛され、佐川の偉人の中でも、最も身近で、最も愛され続けている人物である。このように、佐川町は古くから植物にゆかりがあり、その伝統は受け継がれ、現在も佐川町に根付いている。

「桜のまち」は人びとによってつくられてきた。今も多くの人びとが桜を大切に、町のシンボルとして育てている。また、牧野博士の植物愛と故郷愛が形を変えながらも受け継がれ、「植物の聖地」をつくりあげる活動が行われている。町中に広がった桜と牧野富太郎博士の思いが一体となり、歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

古城山にある牧野公園では、牧野富太郎博士生誕150年（平成24年）を契機に「牧野公園はなもりC-LOVE」が整備活動を始め、春の花見の時期のみに賑わう公園から、四季折々に牧野博士ゆかりの植物など約700種類が楽しめる公園となった。はなもりC-LOVEは、この地道な活動が認められ国土交通大臣表彰である令和5年度「手づくり郷土賞」を受賞した。また、地域住民により古城山を散策できる歩道が整備され、地域住民が作成した看板等も設置されるなど、古城山をめぐる地域住民の活動が活発化した。

また、牧野富太郎博士生誕祭や牧野公園さくらまつりといったイベントの会場となるなど観光面と連携した活用がされている。



「牧野公園はなもりC-LOVE」の活動の様子

③ 自己評価

牧野富太郎博士顕彰事業の実施により、地域住民の古城山や牧野公園、自然や草花への保存の意識が高まっている。それにより、地域住民の手による整備が行われ生誕祭等のイベントの実施に繋がるなど歴史的風致への活用が進み、理解が深まっている。



手づくり郷土賞受賞記念発表会

④ 今後の対応

地域住民による保全・整備活動を今後とも支援していく。

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
歴史的風致	3「商い」にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物等の保全・活用に関する方針 II 歴史的資源の保全・整備・活用に関する方針		

① 歴史的風致の概要

佐川町の中心部にある上町地区は、土佐藩筆頭家老深尾氏の城下町として栄え、主に商人が居を構えた「商人のまち」であった。その風情は現在も受け継がれ、伝統的な商家住宅や酒蔵などが町並みを形成している。深尾氏は入国後国づくりを進め、土居を中心とした郭中町（侍町）と商工業者や下級役人の住居である町人町を建設した。町人町上町（現在のの上町地区）には、東西約300mの道を造り、その両脇に宅地を構え、各地から有力商人を呼び寄せ、商業特権を与えた。呼び寄せられた商人は、織物、酒、糶、大工、左官、鍛冶、染物などの多種多様な技術を持った職人であった。以後400年余り経過した現在では「酒造り」は佐川を代表する「商い」となっている。「酒造り」が佐川で栄えた背景には、その自然条件の良さに負うところも大きい。佐川は山に囲まれた盆地であり、冬の寒さは酒造りに適している。また、町を仁淀川の支流が貫き、水は豊かである。酒造りの仕込み水は奥の土居の湧き水で、本来酒造りに不向きと言われている軟水を使用し、芳醇無比と賞される独特の風味を創りあげている。「商い」の文化が根付いた本町には、町内の商売繁盛を願い、長年執り行われている祭礼がある。この祭礼は「恵美須神社のおなばれ」と呼ばれ、神社で神事をおこなったあと、町内の商店街を行列が練り歩くものである。佐川独自の「商い」の文化は、今も残る古い町並みや、長年続く活動と、それらを守る人々によって受け継がれている。

深尾氏が創りあげた「商い」の文化には、400年の歴史があり、藩政期から「佐川のまち」の形成に大きな役割を果たした。歴史的建造物は、現在もかつての風景を創り出し、伝統を残した酒造りは歴史を感じさせ、ほのかに薫る酒の香りとともに、「佐川のまち」に染みついている。また「商い」に対する地域の想いは、商売繁盛を願うお祭りとして現代まで受け継がれている。

これらが重なり合うことで、「商人のまち」は創りあげられ、佐川独自の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

「商い」にみる歴史的風致において、第1義とすべきものは、酒造りに関連する歴史的価値を持つ建造物群の修復・保存であるとの認識から事業に着手することとした。

重点地区の中心部は司牡丹酒造（株）の敷地がその多くを占めるが、酒造りに重きをおいた町割りから発展し、各施設の連絡通路から発生したと推測される町道上町沿線の建造物（司牡丹酒蔵群）の修復・保存を現計画期間内での重点課題とした。

司牡丹酒蔵群の中で歴史的建造物として代表的なものの1つが司牡丹酒造（株）焼酎蔵である。焼酎蔵については、老朽化が進んでいるため、建物の保存を目的とした改修工事を行うことが決まっている。また、改修後は酒造り歴史展示施設としての活用が予定されており、これが実現すればこれまで以上に「酒造り」の歴史を町内外の方に広く伝えることが可能となる。

また、商売繁盛を願う「恵比寿神社のおなばれ」は100年以上前から執り行われており、恵比寿神社で神事を行った後、町内の商店街を練り歩く。令和3年～令和5年は、新型コロナウイルスの影響もあり神事の開催のみに留まっていたが、令和6年1月には4年ぶりに通常通り開催することができた。



司牡丹酒造（株）1号蔵



恵比寿神社のおなばれ

③ 自己評価

司牡丹酒造（株）焼酎蔵の改修・活用が決まり、歴史的建造物の保全・活用に向けて、事業を推進することができた。

また、「恵比寿神社のおなばれ」が通常通り開催することができ、町民の「商い」に対する意識の醸成を図ることができた。

④ 今後の対応

司牡丹酒造（株）焼酎蔵の他に司牡丹酒蔵群の中で歴史的建造物として代表的なものが司牡丹1号蔵である。

この1号蔵を含めた酒蔵群についても、修繕・保存に向けた検討を行う必要がある。

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
歴史的風致	4「民俗芸能」にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動に関する		

① 歴史的風致の概要

佐川町の各地区に、古くは中世の頃から現在に伝わる民俗芸能がある。これらは豊かな「踊り文化」として、それぞれ民俗芸能が伝わる地域の人々によって継承され、神社における大祭での奉納など、本来の場での披露から町行事等への出演まで幅広い活動を展開している。

地域固有の歴史及び伝統を反映した民俗芸能の活動、地域の人々たちの努力により大切に受け継がれてきた豊かな「踊りの文化」、「風景」「地域の人々」。これらが一体となって織りなす良好な環境が風情ある風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

高知県無形民俗文化財に指定されている、黒岩地区の「瑞応の盆踊」、「佐川町の太刀踊」、佐川町無形民俗文化財に指定されている斗賀野地区の「白倉神社花取踊」は各保存会によって伝統文化の継承及び後継者の育成を図っている。

瑞応の盆踊は、毎年新暦の8月16日に例祭を行っている。黒岩村いきいき応援隊は夜店を出し、町職員、議員も加わり、地区内外との交流を行った。

佐川町の太刀踊は、毎年11月3日に開催される四ツ白仁井田神社秋の大祭や運動会、黒岩マラソンの行事等でも踊りを披露するなど後継者育成に力を注いでいる。

白倉神社花取踊は毎年11月12日の白倉神社の大祭の日に地域の保育園児が神輿を担いでおなばれを行い、神事のあと白倉花取踊を奉納し、その後、餅投げを行うなど地域の祭りとして定着しており、町外からの見学も見られる。

このように住民が主体となり伝統文化保存活動を行うことにより郷土意識の醸成が図られている。



瑞応の盆踊の様子



佐川町の太刀踊の様子



白倉神社花取踊の様子

③ 自己評価

各地域の民俗芸能が住民主体で継承され、後継者の育成にも力を注いでいる。町としても助成事業を行うことにより、伝統文化の継承を促進した。

④ 今後の対応

後継者の育成については、中学生になると地域の行事等の参加が難しくなるため、そこから若者の後継者育成にどう繋げていくのか、また地域の若者人口の減少にどう取り組んでいくのか課題が残る。

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化



佐川町歴史的風致維持向上計画の推進体制については、事業推進に関係の深い、企画部署（まちづくり推進課）、事業部署（建設課）、文化財部署（教育委員会事務局）が連携し、佐川町歴史的風致維持向上計画協議会事務局を設けた。必要に応じて事務局会を開催し、計画の効果的な推進を図っている。事業が本格化するまでは、年に数回程度の開催であったが、事業が進むにつれて回数も増えていき事業の詳細な打合せを行った。

また法定協議会である「佐川町歴史的風致維持向上計画協議会」は、町内の団体や有識者等で構成されており、計画策定後も定期的に協議会を開催し、事業に関する進捗状況の報告や事業に対するご意見の聴取を行い、計画の円滑な推進を図っている。



事務局会



佐川町歴史的風致維持向上計画協議会

② 庁内の意見・評価

- ・令和5年度に歴まちカードを作成し、重点区域内の観光施設で配布を開始したことにより、本町の歴史的風致をPRすることができている。

- ・司牡丹酒造（株）焼酎蔵の活用方法を検討する際、近隣の事業者へのヒアリングやワークショップを開催し町民の思いや意見などを聴取し、可能な範囲で反映できたことは良かったと思う。

- ・「らんまん」の放送をきっかけに「牧野富太郎博士顕彰事業」を行ったことにより、全国の方へ本町をPRできたことはもちろんだが、大人から子どもまで幅広い世代の町民に、あらためて牧野富太郎博士について知っていただくことができたのは良かった。

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
<p><b>① 住民意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上町地区には、観光客がゆったりくつろげる、休憩スペースが無いのでそういった場所が必要だと思う。</li> <li>・ 佐川町に足を運んでもらい楽しんでいただくためには、佐川町の歴史や文化を全国の人に知ってもらう必要があるため、情報発信が重要になる。</li> <li>・ 文教施設も多く、文化の香りがするまちづくりを進めてもらいたい。麴を使った伝統的な酒造りがユネスコの無形文化遺産に登録される予定。それが起爆剤となってさらにお酒の文化が広まって欲しい。</li> <li>・ 上町地区は、酒造りで発展してきたため、今後も白壁の街並みも含めて、長く続いてほしい。また、お酒造りについて学んだり、体験できると良い。日帰りだとお酒を飲めないため、宿泊してお酒も堪能してほしい。</li> </ul>			
<p><b>② 協議会におけるコメント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 焼酎蔵活用と展示内容について、酒造り展示施設だけではあの建物は広すぎる。この地域の人々の暮らしを伝える民具の展示ならスペースがあまり必要なく、重要なものになってくると思う。</li> <li>・ 佐川町の文化を伝承していくために、町に保存されている民具を展示する施設を希望する。</li> <li>・ ミニコンサートを開催できるようなステージや、町内在住のアーティストや作家・子どもたちの作品を展示する施設はどうか。何度来ても楽しめる施設になると良い。</li> <li>・ 喫茶、軽食できる場所。</li> <li>・ 他観光施設と連携できる活用方法を検討していく必要がある。</li> </ul> <p><b>【司牡丹酒造（株）焼酎蔵買取・整備事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震補強基本計画及び活用計画策定業務公募型プロポーザルの実施について、歴史まちづくりの専門の内容が分かる、また周辺の施設とのバランスも考えていただくという視野を持った事業者を選定してもらいたい。</li> <li>・ 焼酎蔵活用と展示内容について、酒造り展示施設だけではあの建物は広すぎる。この地域の人々の暮らしを伝える民具の展示ならスペースがあまり必要なく、重要なものになってくると思う。</li> <li>・ 佐川城跡整備事業について、歴史的な遺構の保存と観光のバランスをとった開発をしてもらいたい。</li> </ul>			

市町村名	佐川町	評価対象年度	H31～R5
<p><b>① 全体の課題</b></p> <p>1. 現在、司牡丹酒造（株）焼酎蔵の保存・活用が決定しており事業を進めているが、焼酎蔵以外の酒蔵群も次第に老朽化が進んでいるので保存・活用について検討する必要がある。</p> <p>2. 本町の歴史まちづくりは計画策定から十数年が経過したが、対外的には認知度が高いとは言えないため、これまでの活動を継続していくことが必要である。</p> <p>3. 民俗芸能の後継者育成については、中学生になると地域の行事等の参加が難しくなるため、そこから若者の後継者育成にどう繋げていくのか、また地域の若者人口の減少にどう取り組んでいくのか課題が残る。</p> <p>4. 牧野富太郎博士を題材にした連続テレビ小説「らんまん」の効果などもあり、観光客数が増加し本町をPRすることができたが、全国の観光地に比べると知名度は高いとは言えない。</p>			
<p><b>② 今後の対応</b></p> <p>1. 事務局内をはじめ、酒蔵群所有者である司牡丹酒造（株）とも連携を図りながら、各酒蔵群の保全・活用の検討をしていく。</p> <p>2. 今後も街並み・文化・観光施設等の質をさらに高め、重点区域内の一体的な活用を図り、認知度を高めていく。また、これまでの活動に加え、新たな取組みについても検討をする。</p> <p>3. 民俗芸能の後継者育成については、中学生以上になると距離を置くことになるのは、致し方ない面もあるので、小学生に、大人になったとき踊りを継ぎたいという思いが芽生えてくるような、よりきめ細かな下地づくりの指導をおこなう。</p> <p>4. 今後も牧野富太郎博士を切り口とした観光振興事業について継続していき、観光協会や地域団体と連携し、町内外、全国からの観光客の誘致を推進することで、歴史的風致への理解や活用を図っていく。</p>			